

牧草と園藝



秋播き青刈えんばくの品種と利用

府県において乳牛多頭化が定着し、糞尿還元とサイレージ作物の作付けから、1年2毛作、3毛作栽培が盛んになっています。特にとうもろこしに次いで青刈えんばく、ライ麦の栽培面積が増加しつつあり、利用形態も青刈からサイレージへ移行しています。



◎青刈えんばくの品種の特性

品 種 名	早晩性	利 用		初期生育	耐寒性 耐雪性	再 生 力	摘 要
		青 刈	サイレー ジ				
ハ ヤ テ	極早生	○	◎	早	弱	やや不良	9月上旬播きで11月に収穫し、12月にサイレージ利用に適。直立型で葉が広く、青刈、サイレージ兼用型。
前 進	早 生	◎	◎	中	中	中	
太 豊	中 生	◎	◎	中	中	中	直立型で草丈高く多収。青刈、サイレージ兼用型。 分けつ多く、再生が早く、2～4回刈（青刈）に適。
豊 葉	晩 生	◎	○	中	強	良	
雪印101号	極晩生	◎	○	中	強	良	

注：◎最適、○適

◎ 青刈えんばくの品種の使い分け

I 9月上旬播き12月収穫貯蔵（サイレージ）

極早生品種ハヤテは初期生育が早く、関東地方以南で11月に収穫し、12月にサイレージ利用できます。西南暖地では十分に糊熟期～黄熟期に達し、ホールクロップ・サイレージを調製できます。

II 秋播き翌春に青刈・サイレージ兼用

前進および太豊は茎太く直立型で、青刈にもサイレージ利用にも適する。太豊は草丈が高く、分けつもやや多く多収。暖地では9月中旬～下旬に播種すれば、年内(11月～12月)に1回青刈ができる。

III 秋播き翌春に2～3回青刈利用

豊葉および雪印101号は、草えんばく型で茎が細く分けつ数多く、耐寒性耐雪性が強い。生長点が低く、再生力が旺盛で4～6月に2～3回青刈利用に適する。9月中旬～下旬に播種すれば、年内に1回青刈ができる。

9月上旬播種・年内利用試験成績

雪印種苗千葉研究農場(昭53)

品種名	播種	出穂始	草 丈		10a当たり収量(12月23日収穫)				
			10月26日	12月23日	生収量	同比	乾物率	乾物収量	同比
前 進	9. 9	—	cm	cm	kg	%	%	kg	%
太 豊	—	—	65	92	3,000	100	18.0	540	100
ハヤテ	—	11. 12	64	92	3,025	101	17.7	531	98
			83	110	3,275	109	20.0	655	121

秋播き翌春利用試験成績

雪印種苗千葉研究農場(昭50)

品種名	播 種	青刈調査 (5月8日)				サイレージ調査 (6月24日)			
		草丈	生育相	生 草 収 量	同 比	草丈	生育相	生 草 収 量	同 比
前 進	10. 25	cm	出穂前	kg	%	cm	糊熟期	kg	%
太 豊	—	114	—	5,129	100	169	—	3,962	100
豊 葉	—	116	—	5,463	107	187	—	5,630	142
		106	—	5,004	98	177	—	5,087	128

